

京都市環境審議会 第3回京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録

日 時 平成24年1月30日(月) 午後2時～3時15分
場 所 職員会館かもがわ1階第1会議室
出席者 小幡部会長, 板倉委員, 外池氏(奥原委員代理), 深尾委員, 村瀬委員, 吉村委員
欠席者 大久保委員, 徳地委員, 松本委員

内 容

1 開会

2 議題

(1) 京の環境共生推進計画における進ちょく点検結果の総括案について

・事務局から資料1について説明。

(小幡部会長) 今までに議論したことは網羅されているように思う。

(的場環境総務課担当課長) 前回の検討部会において, 長期的目標5の進ちょく状況を議論した際に, 「環境教育・学習の推進」に掲げる「環境関連施設利用者数」について, 平成21年度から京エコロジーセンターでの環境学習が必修から選択制になったため利用者数は減少と説明したが, 京エコロジーセンターもしくは青少年科学センターの選択になっている。その理由としては, 「こどもエコライフチャレンジ」が全小学校で取り組むまでに拡大したことによる。

(小幡部会長) 環境関連施設利用者数は京エコロジーセンターだけが対象だが, 青少年科学センターも含めることになるのか。

(事務局) 小学生の教育課程による青少年科学センターの利用者数は実績に含んでいない。

(板倉委員) 京エコロジーセンターの運営に関わる立場の意見として, 指定管理者が運営しており, 入館者数が減ると, 市からどうして減ったのかと追求される。減った理由は教育委員会が選択制に変更したことによる。自助努力で入館者数を増やすようにということだが, 小学生の入館者数はケタが違う。

京エコロジーセンターの必修というのは教育現場ではかなり負担になるのか。

(深尾委員) 小学5年生は4泊5日の長期宿泊を実施し, そこでも自然に関する学習をしている。

(板倉委員) 山の家では自然が中心であり, 京エコロジーセンターではごみや地球温暖化などが中心になるので方向性は異なると思う。

教育現場から教育委員会に必修をやめてほしいという要請があったのか。

(深尾委員) 私が知る限り, そういう話はない。長期宿泊や「こどもエコライフチャレンジ」を使った学習, 各教科や総合的な学習の時間を使った学習など, 各学校でも環境についての色々な取組をしている。

(板倉委員) 各学校で自前で工夫されているのはいいが, 京エコロジーセンターでも色々な工夫をしているので学校にも利用してもらえるのが一番望ましい。

(小幡部会長) 飛躍的に入館者数が伸びるような方法があるのか。

(板倉委員) 町内会もしくは自治会で利用してもらえれば入館者数は増えると思う。

(村瀬委員) 地域女性連合会では京エコロジーセンターをよく使っている。エコクッキングなどをもっと一般の人に広めたらどうか。交通費がかかることはネックだが、子ども達にとっては学校の外で学ぶ機会は大切である。

(的場課長) 参加者の希望に基づき見学先を設定するオーダーメイド型のエコバスツアーの行き先として京エコロジーセンターを選ぶこともできるので、周知に努めたい。

(外池氏 (奥原委員代理)) 目に見えない二酸化炭素は数字だけが飛びかっているような感じで、一般の方や中小企業の方には非常にわかりにくいと思う。もっと具体的な取組を示す必要があると思う。公共交通機関の利用を増やすためにどのようなことがなされているのか、公共交通機関の利用が増えない原因は何なのか、もっと市民の気持ちが動く仕組み、動くような伝え方が必要だと思う。

(小幡部会長) 分かりやすく伝える必要があるというのは確かだ。課題や公共交通機関の利用促進に向け、市がどういったことを行っているのかをわかりやすく提示する必要があるというのは重要な指摘である。

(的場課長) 本日、この部会でいただいたご指摘は、環境審議会で報告し、色々な切り口からご意見をいただき、京都市全体の施策の取りまとめに生きるよう対応していきたい。

(小幡部会長) 街全体の交通体系をどうしていくのか、これは間違いなく課題である。

産業部門の二酸化炭素排出量は基準年から半分以下になっている。産業の活性化・経済の発展と合わせてやるにはどうしたらいいのかということだが、そのあたりの議論はどうか。中小企業と大企業では削減率が違うといったことについては、地球温暖化対策推進委員会で議論されていると思う。

(的場課長) 環境審議会では、京の環境共生推進計画評価検討部会から、幅広い分野についての検討結果の報告をしていただく。地球温暖化対策推進委員会でも今年度、検討している部分がある。

(小幡部会長) 本部会と地球温暖化対策推進委員会の情報は共有していきたいし、そこで議論ができると思う。

(的場課長) 年度内に地球温暖化対策推進委員会はあと 2 回会議があり、現時点で提示できる資料はない。

(小幡部会長) 「経済の発展と二酸化炭素排出量の削減の両立」が必要であると書かれているのは格好いいが、ではどうするのか、と言われた場合にどうするのか。それは再度検討するということで進めていただければと思う。

(松本環境企画部長) 京の環境共生推進計画は京都市全体の環境行政のマスタープランであり、CO₂ やごみなどについては別の条例や計画があり、別の会議で様々な検討がなされている。この部会には様々な会議などの検討結果が集約され、全体で評価することになる。リアルタイムにすべての情報を取るの是非常に難しいが、極力、情報提供するようにさせていただく。

(小幡部会長) 色々なところでの議論があって、課題が出てくるのはわかる。議論を深めるためにも、部会等の様々な会議の役割分担というか、仕分けをやっていただければと思う。

長期的目標4の「課題」に「包装材削減に向けた京都モデルの構築」とあるが、これはごみ減量の会議で議論されているのか。

(的場課長) ピーク時からのごみ量半減を目指す中で、包装材の削減も進めている。包装材がごみに占める割合が非常に大きいことから、こういったところまで包装材を削減するのが望ましいのかというガイドラインを作成する。

(小幡部会長) 「京都モデル」とは、検討の中で出ている言葉なのか。

(松本部長) 「みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プラン」の包装材削減に向けた取組の中に、ガイドラインの作成と条例化の検討についての記述がある。他都市にはあまり例のない京都市独自の取組であり、そのプランの中で「京都モデル」と呼んでいる。

(小幡部会長) 今年度の評価検討部会の検討結果はこの資料の内容で環境審議会に報告したい。いくつかの議論については事務局と調整し、報告に臨みたい。

(2) 平成23年度版 環境レポート案について

・事務局から資料2について説明。

(小幡部会長) 昨年度の環境レポートのフォントはゴシック体だが、今回は明朝体になり、読みやすくなったという気もする。

(村瀬委員) 写真もたくさん入って見やすい。

「鴨川の自然の恵みを育む協働事業」、鴨川に魚道を作ったということだが、これには驚いた。鴨川を鮎が遡上してくるので、子ども達も感激していた。

(小幡部会長) 「仮設魚道の設置」となっているが、本格的に工事されるのか。

(松本部長) 平成23年度に実験的に設置している。

(村瀬委員) 市民一人ひとりの行動によって川の水がきれいになり、ごみも減る。どんどん意識を広げていかないといけない。いくら役所が旗を振って頑張っても、皆が動かないと意味がない。京都市は大会場の中に大きな川が流れており、周りは山に囲まれている。この自然に恵まれた環境を利用しない手はない

(小幡部会長) 京都市ではたくさんの事業をやられていて、環境レポートには出来ていることが書かれているが、一方で中小企業では事情により、取組が進まないということもある。年次報告ということであれば、ここは悪かった、ここは頑張らないといけないというようなことも示したほうがバランスが取れると思う。

(板倉委員) p7・8に「主な「環境」関連ニュース」が入り、昨年度の環境レポート p6の自然関連の市民が参加できる色々な取組の記述が削除された。市民から見てどちらが便利なのか。自然関連の情報が削除されたのは個人的には非常に残念である。カレンダー式に紹介した意図はあるのか。

(的場課長) 環境レポートは年次報告という側面があることを意識したことと、環境と言っても色々な切り口があり、色々な施策を実施している。見出しだけではわからないが、この環境レポートを見たことをきっかけに市のホームページを見ていただき、どういう取組だろうと興味を持ってもらうきっかけづくりも意図して提案している。自然環境関連の情報がまだまだ市民に伝わっていないということであれば、再度、自然の特集を組むこともできる。

- (小幡部会長) 「「京のいきもの発見ガイド」発行」のところにガイドの写真を入れることもできる。
- (的場課長) スペースは若干小さくなるかもしれないが、長期的目標 1～5 のコラムとして掲載することもできる。
- (深尾委員) p7・8 の「主な「環境」関連ニュース」には平成 22・23 年度の取組が並んでいる。このような取組を、その時々でタイムリーに知るためには何を見たらよいのか。
- (的場課長) 一覧となっているのは、「市民しんぶん」である。「主な「環境」関連ニュース」の情報は、市バスや市営地下鉄に貼られる「きょうと市民しんぶんヘッドライン 京都市民ニュース」を参考にしたものである。
- (深尾委員) そういった情報はどこを見ればいいのかわかるようにしてもらいたい。
- (小幡部会長) p8 の紙面にはまだ余白があるので、そこに掲載してはどうか。
- (松本部長) 「市民しんぶん」に詳しい情報が掲載されている。また、京都市のホームページである「京都市情報館」にも環境に関する様々な情報を掲載している。
- (吉村委員) 興味のあるところだけ抜粋して読むなど、「市民しんぶん」を活用させていただいている。
- (小幡部会長) 自然環境関連については他のスペースを活用することもできるので、p7・8 の「主な「環境」関連ニュース」は今回はこのような形でいきたい。
- (吉村委員) p5 のパークアンドライドの説明は実感がわく数値も掲載されており、すごくいい啓発になると思う。これはどのように取られた数値か。
- (松本部長) 観光客の動向調査でアンケートを実施した。
- (吉村委員) 駐車場を探す手間などを考えてみれば、電車やバスであれば、1 箇所多くまわれるのだとわかり、意識も変わると思う。
- (小幡部会長) 残りの写真やイラストなどを入れて環境レポートを完成していただき、環境審議会に提出することにしたい。

3 閉会